

ドクターカー運行1周年!

ドクターカー運行

1周年を迎えて

2020年10月に運行を開始したドクターカー。全国初の試みとなる“移動型救命救急センター”を事業「コンセプト」にかかげ、宇都宮市および塙谷地区を中心に活動してまいりました。その需要は多分にあり、1ヶ月間の平均出動件数は70件を超えていました。主に、重症者が発生した3次救急の現場に出動し、その場で心肺蘇生や輸血、緊急手術などを行い、患者さんの救命に尽力しています。

また、当院では、ECMO (エクモ) Team Utsunomiya-Critical Care and ECMO Transport Teamによる医師や看護師、臨床工学技士、救命命士で構成された多職種チームを結成し、重症で病院から運び出すことが難しい患者さんの搬送も請け負っています。たとえば、心臓移植を受けるためにECMO (エクモ) や人工呼吸器を装着した重症患者は、通常では消防機関のもつ救急車で搬送することができません。しかししながら、当院のドクターカーはECMOカーを応用したものであり、かつ、医師は全員

がICO（集中治療）専門医で、車内で専門的なICO管理を行えるため、重症患者を高次医療機関まで搬送することが可能です。この点で当院のドクターカーは、“モバイルICO”とも言われています。

“移動型救命救急センター”に“モバイルICO”。このドクターカーの市民・県民の皆さんにおける認知度も高まり、ドクターカーを見学したいとの連絡も増えてきました。コロナ禍で、見学会をなかなか開催できず歯がゆい思いをしていますが、皆さまの声を直接聞かせていただける貴重な機会となりますので、できる限りご要望にお応えしたい所存です。



救命救急センター長
小倉 崇以

ドクターカー活動の様子

① 重症患者搬送



ドクターカーには、ECMO（エクモ）や人工呼吸器、その他の重症患者治療機器を搭載可能な専用のストレッチャーや、十分な電力、専門的資器材を搭載しています。

② 交通事故現場



重症の外傷患者救命のためには、病院で待っているだけでなく、現場に出向く必要があります。自らも危険にさらされる交通事故現場では、消防機関と協力をし、活動しています。

③ ドクターカー内での処置



ドクターカー内には、従来救急外来で行う蘇生や治療が行えるよう、高度な医療機器や資器材を搭載しています。“モバイル型救命救急センター”です。

④ 消防機関との症例検討会



定期的に、救命救急センターと消防機関で症例を振り返ります。1例1例を、次の重症患者救命につなげるために非常に重要な機会です。

STAFF VOICE

ドクターカーの運用を開始し、1年が経ちました。少しづつ市民の皆さんや病院内の認知度も上がっており、運用当初は「見たことない形の救急車」でしたが、「済生会のドクターカー」と認識してもらえるようになりました。初年度から1,000件近い出動数があり、これまで救命できなかった重症患者の救命や、脳卒中など重度の後遺症を残し得る疾患での予後改善(後遺症軽減)を多く経験しました。2年目は“質の高い、先進的な救命”を目標に、栃木県から全国、世界へ発信し注目されるようなドクターカー活動に取り組んでいきます。市民の皆さんのが安心して暮らせるよう、邁進してまいります。今後とも、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

救急・集中治療科

藤田 健亮 医師

ふじた・けんすけ

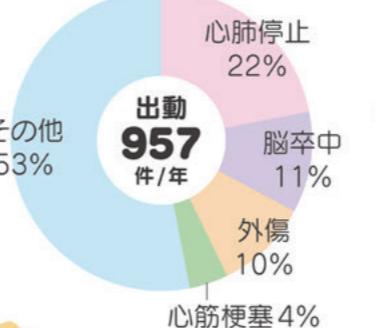


看護師
落合 祥美

おちあい・よしみ

ドクターカー1年の実績

1
2
3



1分30秒
消防からの出動要請から出動するまでの時間です。現場で患者さんと接触してから病院に向けて出発するまでは、約3分。迅速な活動により、“早期医療介入”を可能としています。

10
件/年

病院到着前にドクターカー内で行った緊急手術の件数です。また、輸血開始は5件、全体の約7人に1人の割合で人工呼吸器治療を開始しています。從来救急外来で行う高度な治療を車内で開始し、救命・後遺症軽減に努めています。

120
ヶ所

市内の施設にご協力いただき設置された、救急車からドクターカーに患者さんを移乗するための待ち合わせ場所“ドッキングポイント”的数です。すでに約70ヶ所を使用しました。